

「生成 AI 利用者この 1 年で倍増 中国、米国、ドイツとの差依然大」

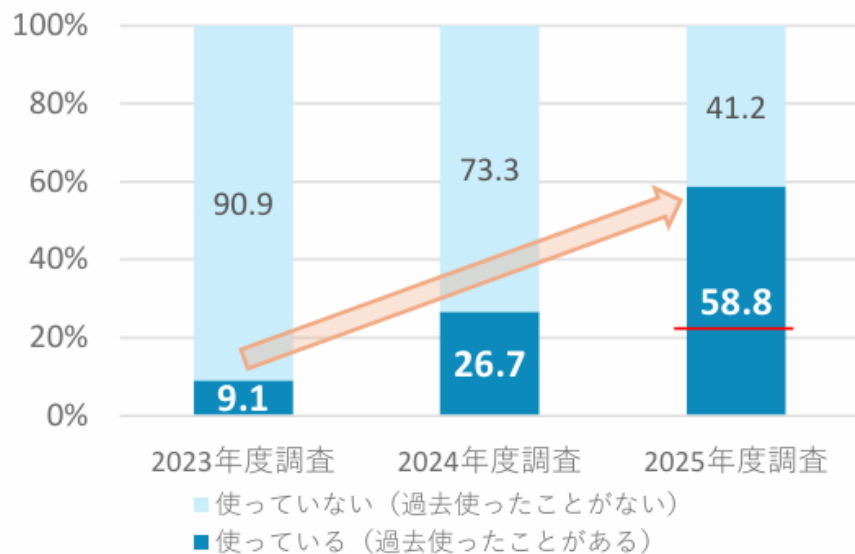
生成 AI（人工知能）を使用したことがある日本人は 58.8%とこの 1 年間で倍増したことが、7 月 24 日に総務省が公表した「令和 8 年版情報通信白書」で明らかにされた。中国、米国、ドイツに比べるとまだ少ないもののその差はだいぶ縮まっている。しかし、特に 30 歳以上の年齢層ではまだ大きな差がある。さらに文章作成にかかわる「テキスト生成 AI サービス」に利用が偏り、画像・動画、音声、音楽、プログラムコードといった多様な生成 AI サービスの利用者がこれら 3 国に比べ非常に少ない。こうした現状も示されている。

白書で報告されているのは、10 歳代から 60 歳代までを対象に今年 1 月から 2 月にかけて日本、米国、ドイツ、中国で実施したインターネット調査結果。対象者はアンケート調査会社が保有するモニターから、年齢と性別が偏らないように抽出された。有効回答数は日本 1,236 件、米国、ドイツ、中国各 624 件。サンプル数を確保する都合上、15 歳未満と 70 歳代以上の年齢層は対象外となっている。調査項目の一つが生成 AI の利用経験。「生成 AI を使っている（過去使ったことがある）」と答えた日本人は、前々回の 2023 年度調査ではわずか 9.1%で、翌 2024 年度の前回調査でも 26.7%にとどまっていた。

生成 AI 利用者 58.8%

しかし、今回の 2025 年度調査では 58.8%と急上昇した。2023 年度、2024 年度には調査には、今回対象となった 15～19 歳が含まれていなかったため、直接比較はできない。しかし、15～19 歳を除いた利用率を見ても 52.2%となり、この 1 年間で生成 AI の利用者はほぼ倍増したことが見て取れる。

日本における生成AIサービスの利用経験(全体)



(総務省「令和 8 年版情報通信白書」から)

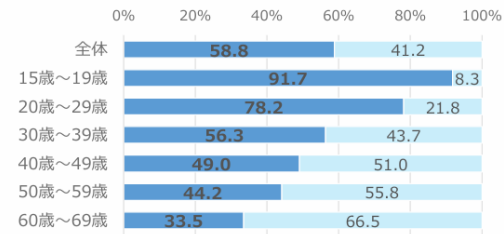
15～19 歳、20～29 歳の利用者増

1 年間でこうした大きな変化が見られたのはなぜか。15～19 歳、20～29 歳の利用者が増えたことを白書は挙げている。「生成 AI を使っている (過去使ったことがある)」15～19 歳は 91.7%。ドイツの 98.1%、中国の 96.2%には及ばないものの米国の 81.3%を上回る。20～29 歳の 78.2%もこれら 3 国はいずれも 90%を超すので差は依然小さくはないものの、**15～19 歳に次いで**比率の高さが目立つ。30 歳以上となるとすべて 30%台から 50%台にとどまる。ちなみに前回、2024 年度調査結果は、15～19 歳は調査の対象外だったため比較する数値はないが、20～29 歳は「生成 AI を使っている (過去使ったことがある)」が 44.7%にとどまっていた。1 年間で 33 ポイント以上増えたことになり、**15～19 歳、20～29 歳**の利用者増が、全体の比率倍増に大きく寄与したことが分かる。

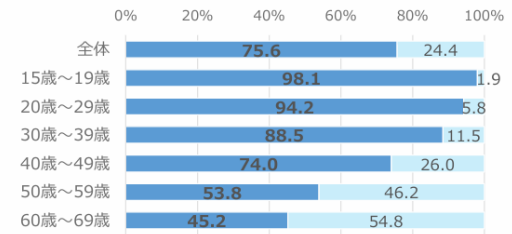
生成AIサービスの利用経験(国別、年齢別)

■使っている(過去使ったことがある)
■使っていない(過去使ったことがない)

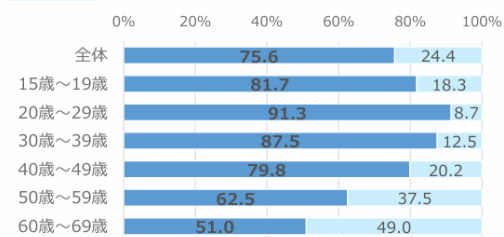
日本



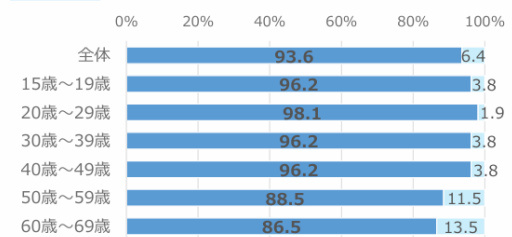
ドイツ



米国

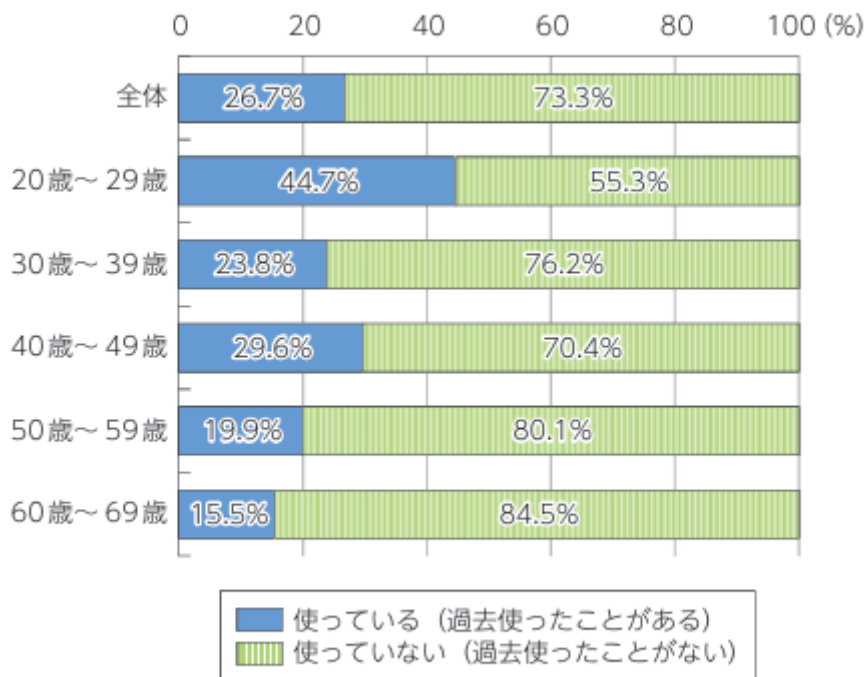


中国



(総務省「令和8年版情報通信白書」から)

図表 I-1-2-8 生成AIサービス利用経験(年代別、日本)



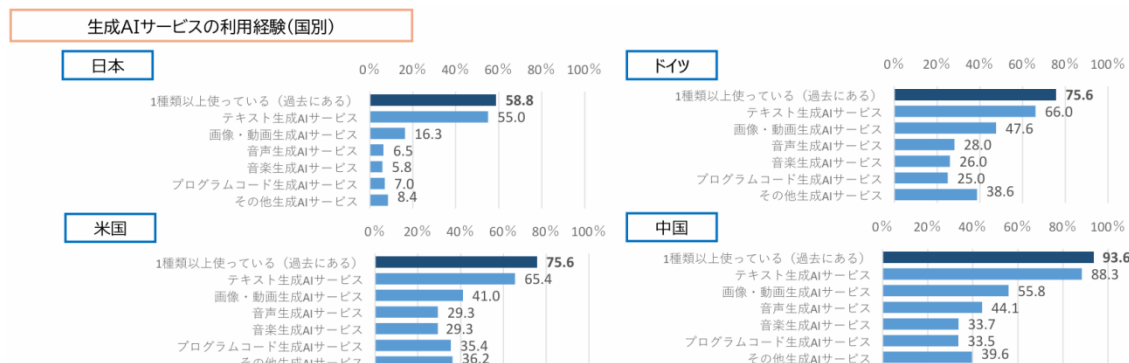
(出典) 総務省(2025)「国内外における最新の情報通信技術の研究開発及びデジタル活用の動向に関する調査研究」

(総務省「令和7年版情報通信白書」から)

中国の生成 AI 利用者 93.6%

ただし、中国、米国、ドイツとの差は依然大きい。「生成 AI を使っている（過去使ったことがある）」中国人は 93.6% もいる。米国、ドイツもそれぞれ 75.6% と日本より約 17 ポイント高い。さらに目立つのが利用法にみられる差だ。日本は「テキスト生成 AI サービス」の利用者が突出して多く、55.0% と半数以上を占める。文章作成にかかわる生成 AI サービスに利用目的が偏っている現状を裏付けており、その他のサービスの利用者は大きく減る。「画像・動画生成 AI」は 16.5%。「プログラムコード生成 AI」は 7.0%、「音声生成 AI」は 6.5%、「音楽生成 AI」は 5.8% と利用者数はさらに低下する。

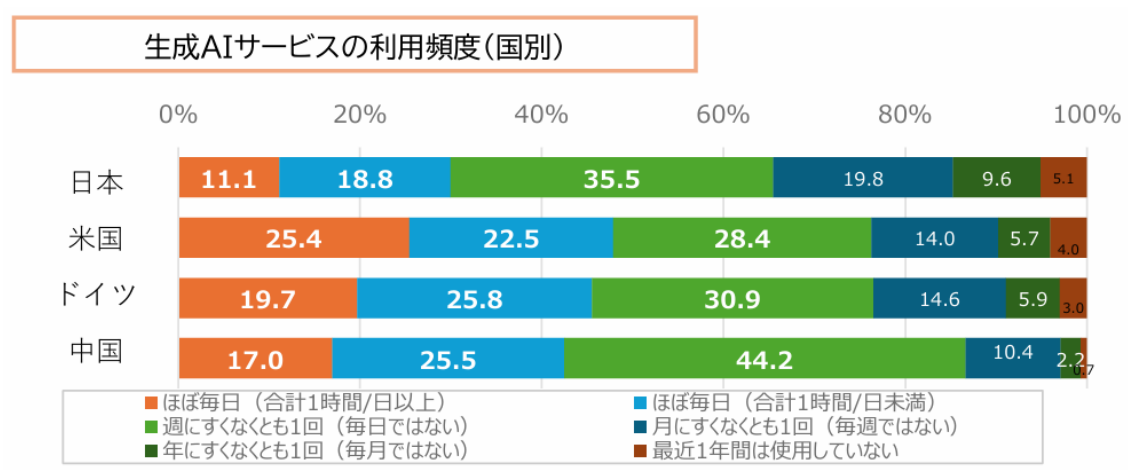
「画像・動画生成 AI」サービスの利用者は中国 55.8%、ドイツ 47.6%、米国 41.0% と 40% 以下はない。日本との差は 24 ポイント以上ある。「音声生成 AI」は中国 44.1%、米国 29.3%、ドイツ 28.0%、「プログラムコード生成 AI」は米国 35.4%、中国 33.5%、ドイツ 25.0%、「音楽生成 AI」は中国 33.7%、米国 29.3%、ドイツ 26.0%。これらもすべて 10% に満たない日本との差は大きい。日本では突出して多い「テキスト生成 AI」に限っても、中国の 88.3% をはじめ 65% を超す米国、ドイツよりも少ないが、他の生成 AI サービスの利用者数となるとさらに 3 国との差は開き、多様な利用という面でも日本の特異な現状が目立つということだ。



（総務省「令和 8 年版情報通信白書」から）

ほぼ毎日利用は 29.9%

調査は、生成 AI 利用者の利用頻度も調べている。ほぼ毎日利用時間は 1 時間以上という利用者が日本は 11.1%。米国 25.4%、ドイツ 19.7%、中国 17.0% より少ない。ほぼ毎日だが利用時間は 1 時間未満という利用者を合わせても日本は 29.9%にとどまり、米国 47.9%、ドイツ 45.5%、中国 32.5%のいずれも下回る。



（総務省「令和 8 年版情報通信白書」から）

生成知らないが 40%という報告書も

近年、さまざまな議論が内外で展開されている AI に関しては、一般の関心が日本と他の国々とでだいぶ異なる現実をうかがわせる調査報告もこれまでいくつか公表されている。昨年 1 月に野村総合研究所が公表した全国 15～79 歳の男女を対象にした「生活者 1 万人アンケート調査結果」は、生成 AI を「利用したことがある」が 9%、「利用したことは無いが、今後利用したい」は 8%にとどまり、「生成 AI を知らない」が 40%に上るという数値を示している。ことし 6 月 2 日に博報堂生活総合研究所が公表した大都市生活者を対象にした「日本・中国・アセアン・インドの 9 カ国調査第 4 回『グローバル定点 2026』結果」も、「AI を信じない」日本人が 59.3%に上るという数値を示している。二番目に多い中国でも 35.4%だから 9 カ国中、日本が飛び抜けて多いのが分かる。

日本の変化裏付ける調査結果他にも

一方、今回の「令和 8 年版情報通信白書」と同様、こうした日本の状況が大きく変化していることをうかがわせる報告もみられる。今年 3 月 31 日の内閣府「人工知能（AI）技術の利用と消費者問題に関する専門調査会第 2 回会合」で内閣府消費者委員会事務局が示した「生成 AI 利用者の利用実態に関するアンケート結果速報」は、55%が生成 AI を利用しており、このうち半数以上が生成 AI を信頼しているという結果を明らかにしている。

こちらは 30,001 人を対象とした事前調査で絞り込んだ 10 代、20 代、30 代、40 代、50 代、60 代、70 代以上の生成 AI 利用者男女各 103 人、合計 1,442 人に対し、2 月 16～18 日に実施したインターネット調査結果だ。利用が飛び抜けて多いのが「対話型（チャット）AI」で、生成 AI 利用者の 72%が活用している。一方、「偽情報の拡散」「個人情報やプライバシーの侵害」「思考力・判断力の低下」を利用に関する不安として挙げた人もそれぞれ 6 割いる。しかし、利用頻度が週 1 回以上という利用者が 7 割に上り、「利用することで生活

がよくなった」とする人も 57%で「悪くなった」はわずか 1.5%。生成 AI の利用者に加え、肯定的な見方をする利用者も急激に増えており、特に 10~19 歳の積極的な利用状況が目を見く。こうした結果が示されている。

日文 小岩井忠道（科学記者）

関連サイト

総務省「[令和 8 年版情報通信白書（概要）](#)」

総務省「[令和 7 年版情報通信白書](#)」

内閣府「[第 2 回人工知能（AI）技術の利用と消費者問題に関する専門調査会「生成 AI 利用者の利用実態に関するアンケート結果速報」](#)」

関連記事

2026 年 04 月 10 日客観日本[日本内閣府生成式 AI 調査：使用率增至 55%，青少年为主体](#)

2025 年 07 月 25 日客観日本[【日本信息通信白皮书】日美中德调查：生成式 AI 研发与应用能力日本处于劣势](#)

2025 年 01 月 28 日客観日本[日本年轻人对生成式 AI 看法不一：十多岁人群的 48%认为会抢走人的工作](#)

2024 年 09 月 13 日客観日本[日本在 AI 领域落后明显, 全球最大 AI 学会的日本论文数量仅占 2%](#)

2023 年 11 月 08 日客観日本[消费者调查证实惊人结果：ChatGPT 高关注和高期待](#)

2023 年 09 月 20 日客観日本[“ChatGPT 可以帮助设计，大学教育和高考也将改变？”](#)